

## 2022 年度:こども園自己評価の報告書 西丘こども園

評価項目	取り組み状況
<b>教育・保育方針</b> <b>教育及び保育の目標</b> <b>全体計画・指導計画</b> <b>こども園として特に配慮すべき事項</b>  ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心豊かな子ども達に～子どもの人権が主体となる活動を通して～」を園内研究のテーマにあげ、3つのプロジェクト（からだづくり・環境・自然）に取り組んだ。</li> <li>・『からだづくり』では、リトミックを園全体で取り組んだり、ホールに身体を動かすコーナーを作ったりした。心が動く体遊びを意識して取り組んだ。</li> <li>・『環境』では、落ち着いて生活できる環境や、遊び込める環境について学び、試行錯誤しながら保育室やホールのコーナー遊びを考えていった。</li> <li>・『自然』では、昨年に引き続き、季節の虫や草花との出会いの他、風・雨・太陽・雪などを通しての気づきや発見を大事にしていった。感じたことが正解をモットーに取り組んだ。</li> <li>・「豊中市幼保連携型認定こども園全体計画」をもとに、主体的に関わり合い、学び合う子どもの姿を目指し指導計画の作成及び具体的な活動保障等を行った。</li> </ul>
<b>健康支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導は、「健康安全」「トイレの使い方」「自分の大事な体」「手洗い指導」等について、絵本や手作り教材を活用しながら指導した。</li> <li>・園児一人一人の健康状態を把握し、感染症予防においても保護者と細やかな連絡を取り合い、園生活が健康的に過ごせるよう努めた。また、「ほけんだより」を毎月発行し、時節に応じた内容や体のこと、感染予防の啓発に努めた。</li> <li>・コロナ感染症対策は事業課と連携を図りながら、園内消毒、換気、加湿（0.1歳児クラスには加湿器を設置）など対策に努めた。</li> </ul>
<b>安全管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、施設安全点検を実施し、必要に応じて修理、改善を行った。</li> <li>・遊びや園外保育、食物アレルギー等、マニュアルに基づき安全保育の徹底を周知していくよう努めた。</li> <li>・災害（地震・火事等）に対する避難訓練を毎月実施し、不審者侵入に対する訓練も適時行った。1月・3月には大型地震を想定した避難訓練を行い、その際に、防災・命について考える機会を持った。</li> </ul>
<b>食育の推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園給食のもと、玉ねぎの皮むき等給食素材に触れ調理過程を体験したり、旬の素材を伝えたりしながら食への関心に繋がるよう努めた。年長クラスのカレー作り、餅つき、炊き出しでは、薪を拾い火を起こしてかまどで作る経験にこだわった。</li> <li>・園舎裏に畑を作り、土づくりから子どもと一緒に菜園活動を行った。食育計画を立てながら、技能員と共に様々なクッキングを実施した。取り組みを通しての気づき・反省を菜園カレンダーにまとめた。</li> <li>・地域の親子対象のおやつ講座は園で栽培した野菜の収穫から始め、アレルギーに配慮したクッキングを経験してもらった。</li> </ul>
<b>子育て支援</b>  ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の日常の様子を写真を添えて発信したり、送迎の際に具体的な様子を伝えたりして、保護者との信頼関係を築くことに努めた。</li> <li>・地域支援事業の園開放には日々、多くの親子が来園され、ほっとしながら過ごす姿や、地域支援員に相談する姿が有る。コロナや感染性胃腸炎の流行の為、開放中止期間があったが、その間の電話での問い合わせには丁寧な対応を心掛けた。また、感染が落ち着いている時には工夫しながら地域の親子さんとの交流する時間や園の子の様子を見ていただく機会をつくっていった。</li> <li>・子育て支援センターにて、児童発達支援センターのOT・STにお越しいただき『言葉の育ちの話』を切り口に気軽に相談できる日を設けた。</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>教育・保育内容</b></p> <p>・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間・月間指導計画を基に、公開保育及び保育会議を毎月実施した</li> <li>・運動会・造形・生活発表会の行事では、体と心の育ちの筋道やイメージの育ちについてまず学び、子ども達の具体的な姿から次につながる活動は何かを考えていった。活動に追われるのではなく、育つ力・育てたい力を考えて取り組めるようにしていった。具体的な取り組みを5領域で整理し、育った姿と、課題を明確にすることに努めた。</li> <li>・公開保育で『豊中市環境ガイドライン』を活用し、振り返りに生かすことができた。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>特別支援教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の支援計画」をもとに保護者と確認し合いながら、個々の課題や友達と育ち合う姿を共有していった。</li> <li>・ティーチャーズトレーニングの研修を受け、子どもが、自己肯定感を持てるようなかわりを学んでいく。悩みを共有し課題を明確にして問題を解決していく中で効果的なかわりを学んでいくことを目的としていて今後は、それを職員間で共有していくことに努める。</li> <li>・就学先の小学校と連携を図り、切れ目のない支援を目指した。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>職員の資質の向上</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトチームを作り「からだづくり」「環境」「自然」の3つのグループに分かれて取り組んだ。職員一人一人が主体的にかかわり、自ら発信していく姿勢を大事にした。</li> <li>・活動に追われるのではなく、何故それをするのか？なぜ大事なのか？どんな力を育てたいのか？を問いかけることで職員が考えて決めていこうとする力になってきている。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>幼保こ小中の連携</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保こ小中が連携する会議はZOOMで開催。小学校への引継ぎについては、子ども達の具体的な様子を伝え連携していった。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>関係者評価の取り組み</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員会は、コロナ感染症状況の為、書面開催が1回あったものの2回は園で開催することができた。コロナの状況の中で、やれることをやろうとする園の取り組みを応援していただいた。子ども達の石や木等見つけたもので遊ぶ姿に、先日、子どもが宝物と言って集めていた石を汚いから、危ないからと捨てさせる大人の姿に心が痛かった話をしてくださった。買い与えなくても、見つけて遊ぶ力があることに共感いただいた。レジリエンス（立ち直る力）の根っこについて考えるとともに、支援センターがコロナ後、外国籍の親子さんの居場所にもなれたらと考える。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>その他</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サツマイモづくりを通しての府立千里青雲高校生との交流は、他施設との交流ができない中、貴重な出会いであった。さつま芋共同農園は今年で8年目を迎えたが、高校側にとっても、園児との交流は楽しい時間となり、地域の中で育ち合う子ども達（園児・生徒）の貴重な機会となっている。</li> <li>・高齢者施設との交流は、実施できなかった。</li> </ul>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p><b>教育保育の質の向上</b></p> <p>・子どもが主体的に遊びを見つけ、展開する環境について考え、工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて過ごしたり、遊びを豊かに展開したりできる保育室の環境について考え、工夫する。</li> <li>・プロジェクトを3つから2つにして、その2つを細分化して取り組む。</li> <li>・『豊中市教育保育環境ガイドライン』を活用する。</li> </ul>

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立西丘こども園

金村 昌代